

平成29年 決算特別委員会（建設部所管）開催状況

開催年月日 平成29年11月10日（金）
 質問者 民進党・道民連合 笹田 浩委員
 担当部課 建設部土木局河川砂防課
 建設部建設政策局維持管理防災課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 治水対策について</p> <p>(一) 河川整備の進捗状況等について</p> <p>私は治水対策について伺ってまいります。</p> <p>近年、全道各地で大きな洪水被害が発生しているところでございますけれども、道はこれまでこういった洪水に備えるために、河川整備を進めてきたというところで認識をしているわけでありまして、また、昨年8月の一連の台風による大雨により、多くの箇所で氾濫危険水位を超えるなど河川整備の必要性が益々高まっていると考えております。</p> <p>まず、はじめに河川整備の進捗状況、そして昨年8月に氾濫危険水位を超えた河川、この整備状況についてお伺いいたします。</p> <p>(二) 河川整備の課題について</p> <p>ただ今、河川の整備状況、進捗状況等について説明がありましたけれども、必要な整備延長が半分にも達しておりません。</p> <p>河川整備の遅れが課題と考えるわけでありまして、その点どのように認識をしているのかお伺い願います。</p> <p>(三) 河川整備計画の見直しについて</p> <p>その昨年8月の一連の台風などによる大雨によって、整備済みの河川と整備中の河川についても、この浸水被害があったと承知していますが、この再度災害が起こらないように整備計画の見直しも必要ではないかと考えるわけですが、その点の考え方についてお伺いいたします。</p>	<p>○河川砂防課長 金澤 克人</p> <p>河川整備の進捗状況等についてであります、道では、限られた予算のなか、緊急度の高い箇所を優先するなどして、効果的・効率的な河川整備に取り組んできているところでありまして、現在、整備が必要な河川、約1,200河川、約7,800キロメートルのうち、一定の整備を終えているのは、平成28年度末で約39%にあたる、約3,020キロメートルとなっているところでございます。</p> <p>また、水位計を設置している275河川のうち、昨年8月の一連の台風などによる大雨で氾濫危険水位を超えたのは、42河川あり、このうち、整備済みは26河川、整備中は16河川となっているところでございます。</p> <p>○河川砂防課長 金澤 克人</p> <p>河川整備の課題についてであります、本道の河川整備は、治水予算がピークとなっております平成8年度から12年度までの5年間で、約370キロメートルの整備を行っていましたが、直近5年間においては、約100キロメートルの整備にとどまり、いまだ十分とは言えない状況にありまして、早期に整備を図ることが重要と考えているところでございます。</p> <p>道といたしましては、予算の確保に努めるとともに、ソフト対策を考慮しながら、効果的・効率的な河川整備に取り組む必要があると認識しているところでございます。</p> <p>○土木局長 清水 文彦（河川砂防課）</p> <p>河川整備計画の見直しについてであります、昨年、多くの河川におきまして、局地的な集中豪雨による災害が発生しましたことから、現在、被災した地域の状況や河川の整備状況などを考慮し、改修規模や整備区間の見直しを行っているところでございます。</p> <p>また、河川上流部で繰り返し浸水被害が発生している区間につきましては、先行して暫定的な掘削や狭窄部の掘削など順次実施しているところでございます。</p> <p>さらに、将来予測される降水量の増大などに対応するため、国と連携し、学識経験者の意見を伺いながら、気候変動を考慮した治水対策について検討しているところであり、今後、この結果を整備計画の見直しに反映していく考えでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(四) 減災対策協議会について 河川整備計画の見直しなど取り組んでいるほか、水害による「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を実現するため、河川管理者や市町村などで構成する減災対策協議会を本年6月から振興局など地域毎に開催していると承知しておりますけれども、その協議会の取組状況について伺います。</p> <p>(五) 危機管理型ハード対策の実施状況について その個別の取組として、危機管理型ハード対策についての答弁がありました。その目的と実施状況について伺います。</p> <p>効果に非常に期待をしています、いい政策だと思っております、あの散歩コースになります。 是非、どんどん取り組んでいただければというふうに思います。</p> <p>(六) 水害対応タイムラインについて 水害対応タイムラインについても答弁がありましたけれども、今後どのように取り組んでいくのか伺います。</p>	<p>○河川砂防課長 金澤 克人 減災対策協議会についてでございますが、道では、昨年8月の一連の台風災害を踏まえまして、全道25の地域で「減災対策協議会」を設置し、洪水被害を軽減するための情報伝達や避難計画に関する事項、水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する事項などについて協議・検討を進めているところでございます。 協議会では、洪水被害を軽減するための危機管理型ハード対策や水害対応タイムラインの作成など、円滑かつ迅速な避難のための取組といった地域で共有すべき事項を検討し、概ね5年以内で実施する取組内容等を「地域の取組方針」として、今年度末をめどに取りまとめる考えでございます。</p> <p>○河川砂防課長 金澤 克人 危機管理型ハード対策の実施状況についてであります。道では、施設の能力を上回る洪水に対しても堤防決壊までの時間を引き延ばし被害の軽減を図るため、堤防の上部をアスファルトで保護するなど、いわゆる粘り強い構造の堤防整備を実施しているところでございます。 現在、管理している堤防の総延長、左右岸を合わせて696河川、約4,600キロメートルのうち、背後地の人口・資産や河川の規模、被災履歴などから、49河川、約440キロメートルの区間を優先的に整備することとしまして、今年度から、せたな町の太櫓川など11河川、約37キロメートルの区間で着手したところでございます。</p> <p>○維持管理防災課長 橋 文夫 水害対応タイムラインについてでございますが、「施設で防ぎきれない大洪水は発生するもの」との考えに立ち、住民避難が円滑かつ迅速に行われることが重要と認識しているところでございます。 そのため、情報伝達の取組として水害対応タイムラインを、洪水予報河川1河川、水位周知河川135河川について、作成することとしており、その沿川市町村数は、96市町村となるところでございます。 道といたしましては、減災対策協議会の場合などを活用し、国や市町村などと連携を図りながら、概ね5年以内をめどに作成を進めてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(七) 水位計について</p> <p>そこで、それを進めるにあたって、この水位計が重要になってくるわけでありまして、河川の水位計は、避難勧告の判断に活用されているわけです。水位計が未設置の河川では、目視で水位を確認することになるわけでありまして、全ての河川に設置するというのは困難であるということは、当然理解はしますけれども、今後、どのように取り組んでいくお考えなのか伺います。</p> <p>新たな水位計の設置に向けて検討するということでもありますけれども、費用はかなり掛かると聞いています。いま、新たな安価なタイプの水位計の開発も進んでいるようでもありますけれども、しかし、まだ時間が掛かりそうでもありますので、そこで、河川のパトロールが重要だということになるわけでもあります。</p> <p>(八) 河川パトロールの実施状況などについて</p> <p>パトロールの実施状況などについて伺ってまいります。河川パトロールにより、樋門・樋管等の河川管理施設の状況や洪水時に河川阻害となる恐れのある流木の有無などを確認することは減災防災上重要と考えております。</p> <p>河川管理施設のパトロール頻度は、どの様になっているのか。</p> <p>また、河川を阻害している流木の処理とその活用にお伺いいたします。</p> <p>(九) 河川の堆積土砂除去や樹木伐採について</p> <p>その河川に堆積している、河道内に堆積している流木の処理の関係でありますけれども、道では、河川の堆積土砂の除去、それと樹木伐採などについて取り組んでいるわけでありまして、その実施状況についてお伺いいたします。</p>	<p>○施設保全防災担当局長 山田 宏治</p> <p>水位計についてであります。豪雨時における水位情報は、避難勧告等の住民避難の判断にあたって重要でありますことから、過去に被災実績のある河川や重要水防箇所を有する河川など洪水による住民等への被害が懸念される河川275河川に水位計を設置してきたところであります。</p> <p>道といたしましては、迅速かつ円滑な避難など防災減災への対応をより確実にするため、被災状況等を踏まえるとともに、関係市町村と連携を図りながら、現地状況を詳細に把握するなどして、新たな水位計の設置に向け検討を進めてまいります。</p> <p>○維持担当課長 若山 浩</p> <p>河川パトロールの実施状況などについてであります。道では「北海道公物管理パトロール業務委託実施要領」により河川パトロールを実施しておりまして、都市部では週1回、その他の河川では月1回、車上より目視で行っており、出水期前には年1回、徒歩による目視で行っているところでございます。</p> <p>実施内容といたしましては、樋門・樋管など河川管理施設の損傷や異常等の有無、河道内の土砂堆積や流木などによる河川阻害の有無などの状況の把握を行っているところでございます。</p> <p>河川パトロールにより確認された流木につきましては、「公共土木施設維持管理基本方針」により河道内などに堆積し、洪水被害の発生の恐れがある場合などに除去しているところであり、除去した流木につきましては、庁内関係各部と連携し、活用の検討を行っているところでございます。</p> <p>○維持担当課長 若山 浩</p> <p>河川の堆積土砂の除去などについてであります。洪水被害の軽減のためには、適切な維持管理が重要と考えておりまして、道では、昨年台風被害を受け河道内樹木伐採などの方策を取りまとめた「河川維持管理のあり方」に基づき、約1,200河川、約7,800キロメートルについて、メンテナンスサイクルを概ね10年として、持続的に取り組むこととしたところでございます。</p> <p>今年度は、被害が生じた河川や河積阻害が著しい河川など約400河川、約500キロメートルにおいて、堆積土砂の除去や樹木伐採を行うこととしておりまして、</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>河川整備の方は思ったように進んでませんけども、この堆積土砂の除去などについては計画どおりというか、進んでいるようでありますので、引き続きしっかりとやっていただければというふうに思います。</p> <p>(十) 今後の治水対策について</p> <p>最後に、これまで答弁があったとおり、国や市町村などと連携を図りながら、治水対策の取り組みを進めているとのことでありますけれども、改めて、今後の治水対策について、予算確保を含めてどのように進めていくお考えなのか伺います。</p> <p>これまで治水対策について伺ってまいりました。</p> <p>近年多発する大雨災害を踏まえ、防災・減災対策をはじめ、公共土木施設の維持管理や老朽化対策についても、道として、道単費も含めて、必要な予算の確保が重要であるというふうに考えますので、この点については知事にも見解を伺いたいので、委員長のご配慮をよろしく願います。</p>	<p>これまでに約300河川、約360キロメートルに着手し、残りの約100河川、約140キロメートルも含め、年度内に工事を完了させる予定でございます。</p> <p>○建設部長 渡邊 直樹（河川砂防課）</p> <p>今後の治水対策についてでございますが、道では、これまでも、限られた予算のなか、緊急度の高い箇所を優先するなどして、効果的・効率的な河川整備に取り組んでいるところでございますが、近年、頻発・激甚化する洪水被害を踏まえ、国と連携して気候変動への適応策についての検討を進めるとともに、「減災対策協議会」において情報共有を図るなど、地域との連携を一層強めながら、ハード及びソフト対策を、より計画的・一体的に進める必要があると認識をしているところでございます。</p> <p>道といたしましては、今後とも、国へ要望するなど必要な予算の確保に努めまして、道民の皆様の安全・安心な暮らしが守られるよう、国や市町村との連携をより一層密にし、総合的な防災・減災対策を進めてまいりたいと考えてございます。</p>